ヒガシホールディングス HIGASHI HOLDINGS CO.,LTD.　証券コード：9029



第105期 中間株主通信

2026年４月１日 ▶ 2026年９月30日



Evolution for Customers

― 全進で未来へ“シンカ” ―

株主の皆様には日頃より当社グループへのご支援を賜りまして、心よりお礼申し上げます。

さて、先日第105期中間（2026年４月１日～2026年９月30日）の決算発表をいたしましたので、株主の皆様には当社グループの状況、そして今後の見通し等を詳細にお伝えできればと思います。

ご一読いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社ヒガシホールディングス
取締役　代表執行役社長　児島　一裕

Ｑ１　2027年３月期中間期業績評価と今後の業績見通しについて教えてください。

幅広い事業領域で業容拡大を進めた結果、当中間期の業績は売上高300.4億円（前年同期比12.1%増）、経常利益22.2億円（同15.5%増）と前中間期を大きく上回り、ともに過去最高を更新しました。
通期業績は、期初予想のとおり売上高590億円、経常利益42.5億円を見込んでおります。

【2027年３月期中間期の業績評価】

売上高は、大手ＥＣ向け３ＰＬセンターである流山ＬＣ(※)増床部分の稼働開始や、既存センターでの取扱量増加による３ＰＬ事業の売上高伸長、オフィスサービス事業における大口得意先からのＩＴ機器回収案件や移転業務の大型案件の受注、ＩＴサービス事業における大型キッティング案件やＮＥＸＴ ＧＩＧＡスクール構想に伴うＩＣＴ機器の導入・保守案件の受注等、幅広い事業領域での成長に加え、2025年10月より株式会社ピアレスの新規連結を開始したことが寄与し、増収となりました。

また経常利益は、流山ＬＣ増床部分の稼働開始に伴う人件費の一時的な増加や、備品・什器・倉庫消耗品の購入等の投資費用が発生したものの、上記の業容拡大により増益となりました。

※ＬＣ：ロジスティクスセンターの略（以下同様）

【今後の業績見通し】

人件費をはじめとする物価上昇や中東情勢の影響など先行き不透明な経済環境が継続する中、当第２四半期の通期予想に対する進捗率は、売上高50.9%、経常利益52.4%と、共に堅調に推移しております。下期においては、引き続き流山ＬＣ増床部分の稼働開始に伴う投資費用は発生するものの、グループ全社で各事業領域での更なる業容拡大に取り組み、通期業績について期初予想のとおり売上高590億円、経常利益42.5億円を見込んでおります。



（百万円）

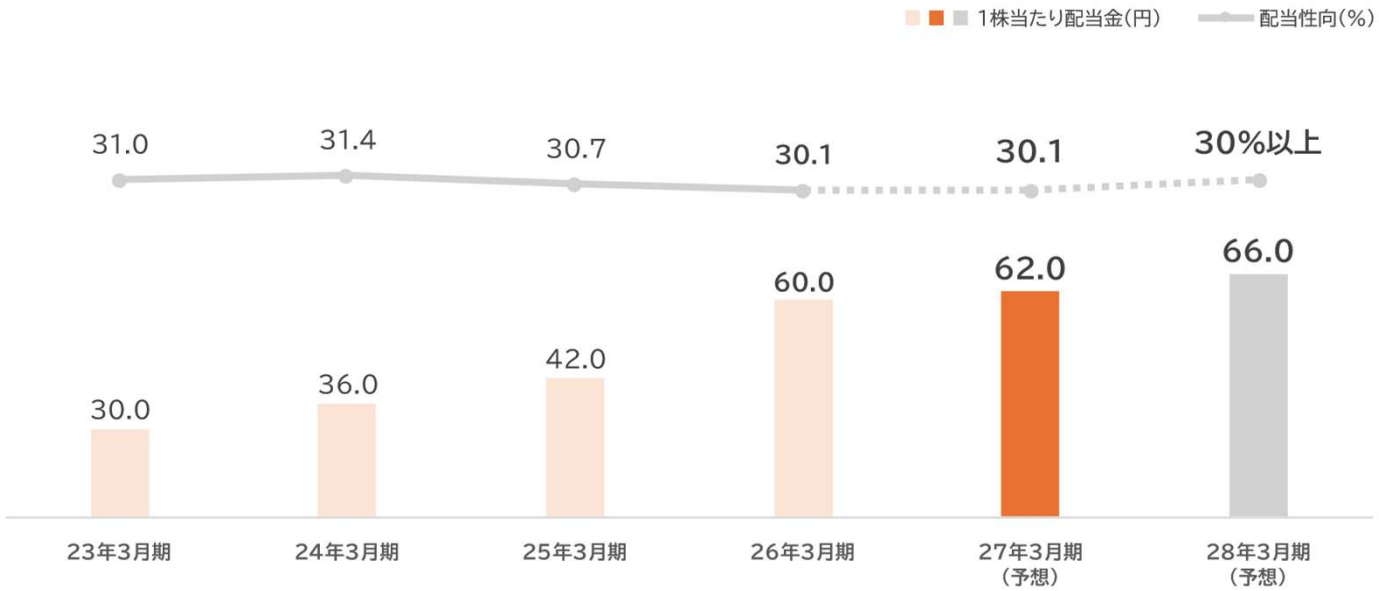
	2027年3月期				【ご参考】2026年3月期実績
	通期予想	全体に占める割合(%)	上期実績	通期業績予想に対する達成率	通期
売上高	59,000	--	30,046	50.9%	57,972
営業利益	4,100	6.9%	2,046	49.9%	4,044
経常利益	4,250	7.2%	2,228	52.4%	4,150
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	2,703	4.6%	1,380	51.0%	2,602
1株当たり中間(当期)純利益(円)	206.16	--	105.36	51.1%	199.25

Q２　株主還元の方針について教えてください。

期末配当は、当初の見込みどおり2026年３月期より２円増配となる62円（配当性向30.0%）とさせていただく予定です。

当社では、株主還元について長期的発展の礎となる財務体質の強化と、安定配当の維持を基本としつつ、成長により獲得した利益を、連結配当性向30%以上を目安に還元する方針を掲げています。

2027年３月期について、業績は好調であるものの、中東情勢を背景とした原油価格の上昇や物価上昇の影響等、外部環境の先行きが不透明であることから保守的に、１株当たり配当金62円と期初予想を据え置く予定です。



Q3　プライム市場昇格要件への適合状況について教えてください。

現時点で形式要件は概ね満たしておりますが、時価総額についても安定的により高い水準を維持できるよう、収益力の強化や株主還元、ＩＲ活動の充実等を通じて、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

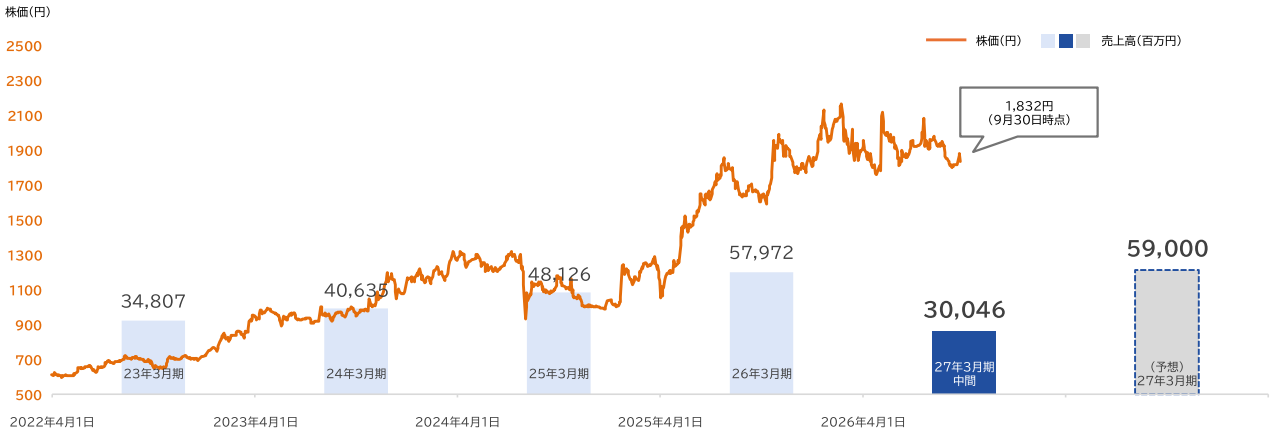
当社グループは、中期経営計画2028のテーマを『プライム市場昇格へ向けたファンダメンタルズを完成させる３年』と位置づけており、プライム市場昇格に向けては形式要件とガバナンス要件の両方を満たすことが必須条件となっております。
形式要件については、株式の流動性や経営成績等で概ね要件を満たしている状況ですが、時価総額は、現時点（2026年９月30日時点）において基準となる250億円を安定的に上回る状況には至っておりません。

（参考）プライム市場の昇格要件

項目		基準	適合状況	
流動性	株主数 ※1単位以上の株式を所有する者の数	800人以上	○	3,868人 （2026年9月30日時点）
	流通株式数	20,000単位以上	○	
	流通株式比率	35%以上	○	
	流通株式時価総額	100億円以上	○	（2026年9月30日時点）
	時価総額	250億円以上	△	242.9億円 （2026年9月30日時点）
経営成績 財政状況	収益基盤 ※いずれかを充足	最近2年間の利益 合計25億円以上	○	25年3月期:29億円 26年3月期:41億円
		売上高100億円 かつ時価総額1,000億円	―	売上高579億円 （2026年3月期実績）
	純資産の額	50億円以上	○	170.6億円 （2026年9月30日時点）

一方で、当社の業績推移を見ると売上高は着実に拡大しており、これと並行して株価も中長期的には上昇傾向で推移しております。こうした株価の推移は、事業規模の拡大や収益基盤の強化など、当社の成長に対する市場の評価が反映されたものと考えております。
足元では中東情勢や原油価格高騰等の外部環境の変化やセクター動向の影響を受け、株価が一時的に弱含みで推移する局面もあるものの、当社は引き続き成長基調により着実に事業規模の拡大を進め、企業価値の向上に取り組んでいくことが重要であると考えております。
ガバナンス要件については、2025年４月に当社はグループのガバナンス水準を引き上げることを目的に、ホールディングス体制へ移行いたしました。ホールディングスが各グループ会社を横串で深度深く管理・支援する体制を構築し、グループ全体の経営管理やガバナンス強化を進めております。

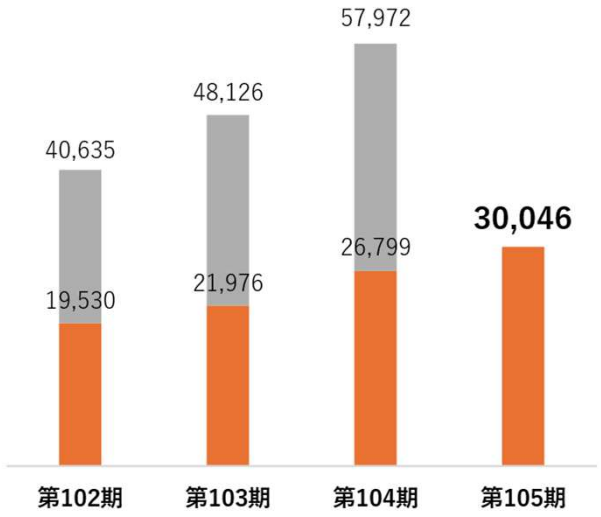
株価・売上高推移



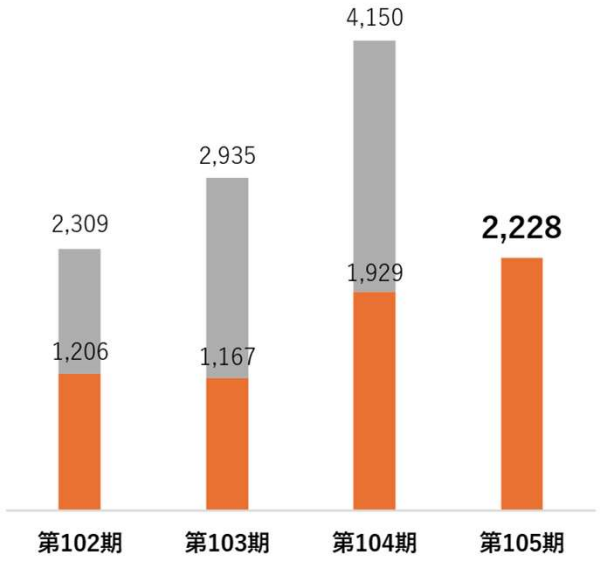
プライム市場への昇格は、当社にとって重要な目標の一つですが、昇格そのものをゴールと考えているわけではありません。プライム市場への移行を通じて、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまから、より一層信頼される企業となり、その信頼を基盤として、新規取引先の開拓や既存取引の拡大、採用市場における競争力の強化等に繋げていくことこそが本来の目的と考えております。プライム市場昇格の先にある当社グループの中長期的な成長を見据え、事業成長による収益力強化を着実に進め、その成果を株主の皆さまにしっかりと還元してまいりたいと考えております。またＩＲ活動のさらなる強化やステークホルダーの皆さまとの対話を通じて、当社の成長戦略や企業価値をより多くの投資家の皆さまにご理解いただけるよう努めてまいります。

決算ハイライト

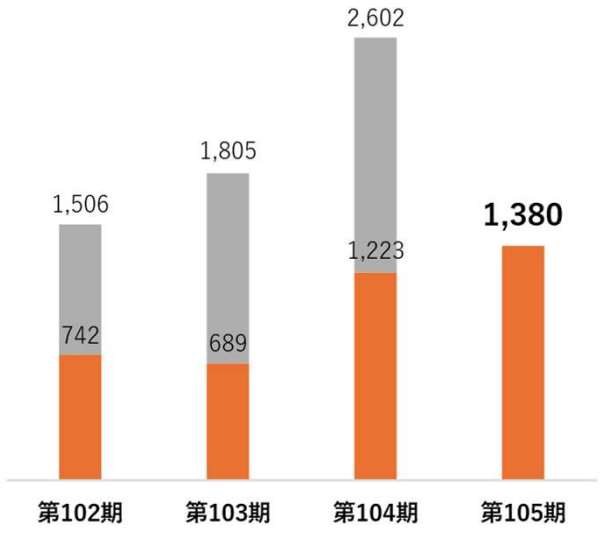
売上高（百万円）



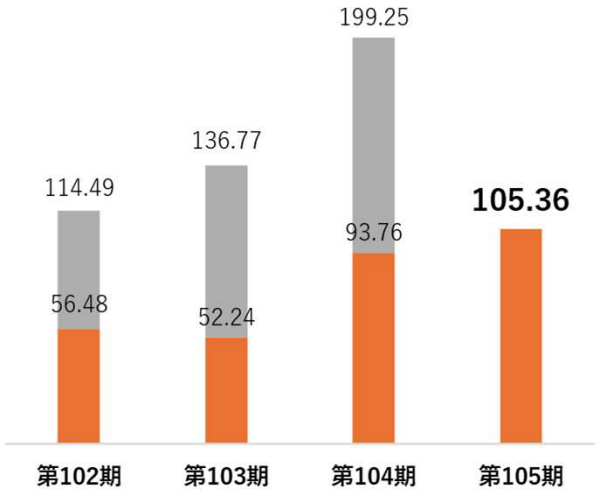
経常利益（百万円）



親会社株主に帰属する中間（当期）純利益（百万円）



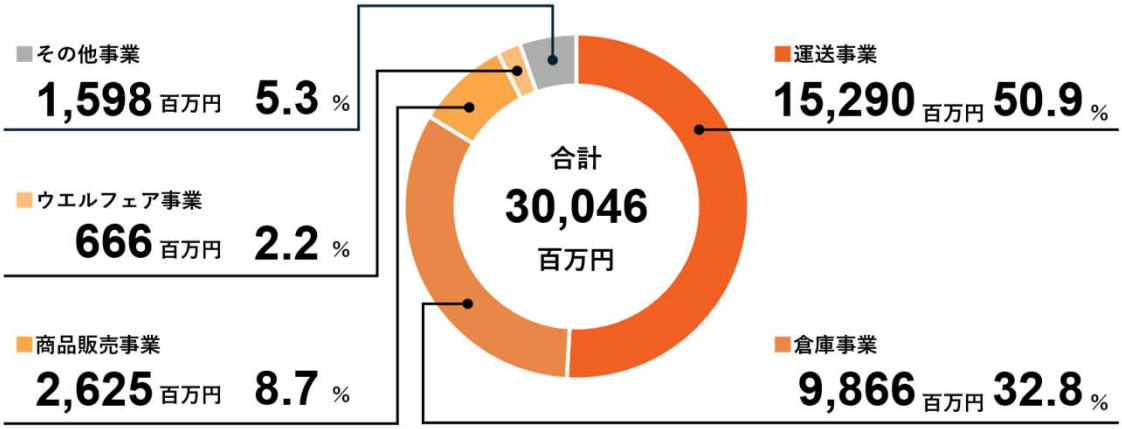
１株当たり中間（当期）純利益（円）



事業の概況



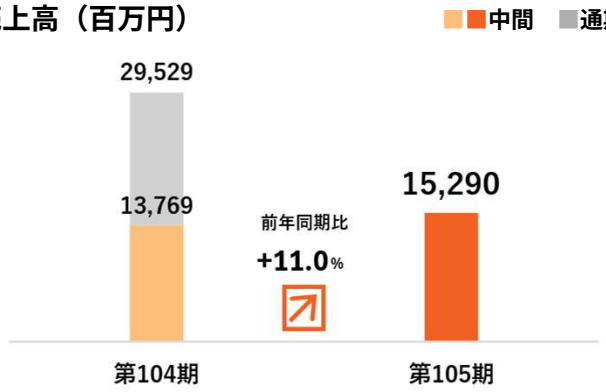
セグメント情報



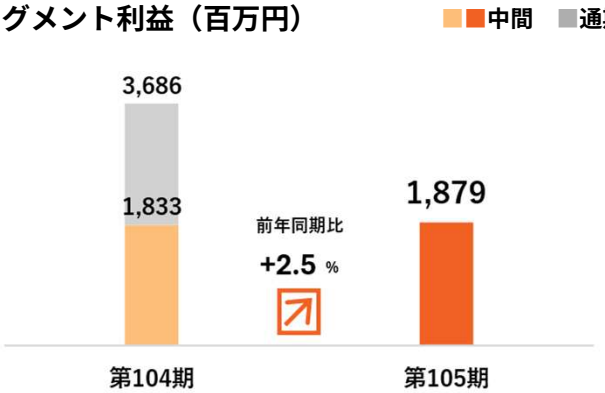
運送事業

当事業につきましては、売上高は152億90百万円（前年同期比11.0%増）となり、セグメント利益は18億79百万円（同2.5%増）となりました。これは主に、オフィスサービス事業における移転業務の拡大やＩＴ関連の大型案件の受注などにより売上が増加したことによるものです。

売上高（百万円）



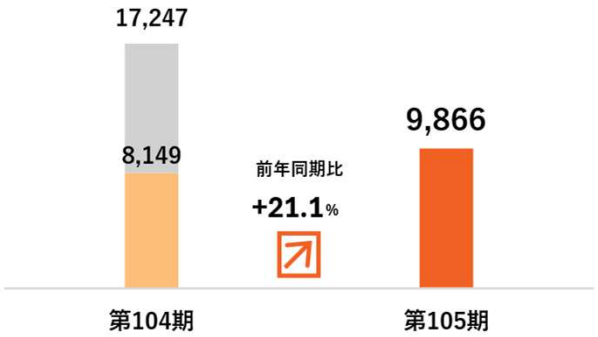
セグメント利益（百万円）



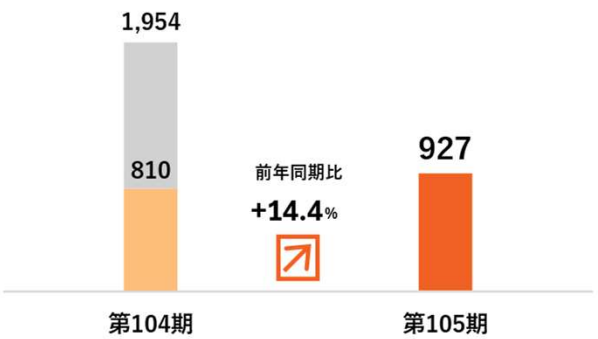
倉庫事業

当事業につきましては、売上高は98億66百万円（前年同期比21.1%増）となり、セグメント利益は９億27百万円（同14.4%増）となりました。これは主に、大手ＥＣ会社向けに開設している「流山ロジスティクスセンター」の増床部分の稼働開始や既存の各ロジスティクスセンターの取扱量増加などにより売上が増加したことによるものです。

売上高（百万円）



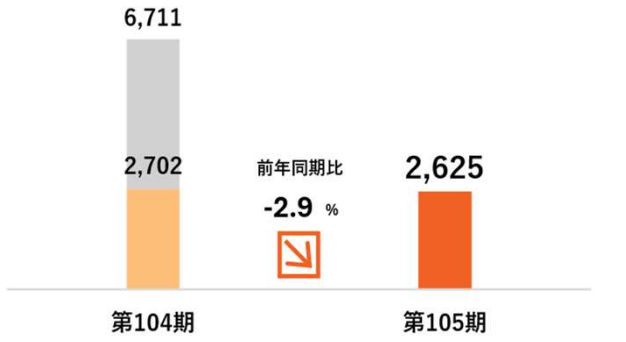
セグメント利益（百万円）



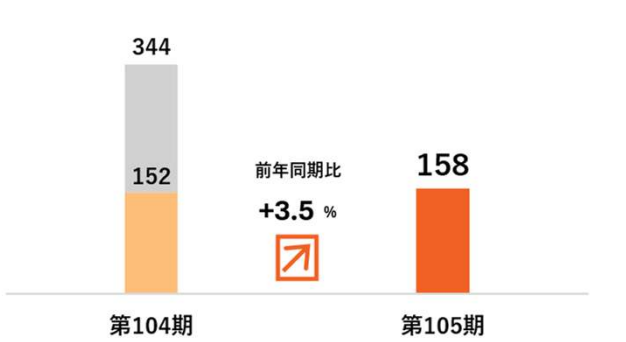
商品販売事業

当事業につきましては、売上高26億25百万円（前年同期比2.9%減）となり、セグメント利益は１億58百万円（同3.5%増）となりました。これは主に、ＩＣＴ機器販売の受注が前年度に比べて減少し、売上はわずかに減ったものの、収益性の向上に努めた結果、利益は増加したことによるものです。

売上高（百万円）



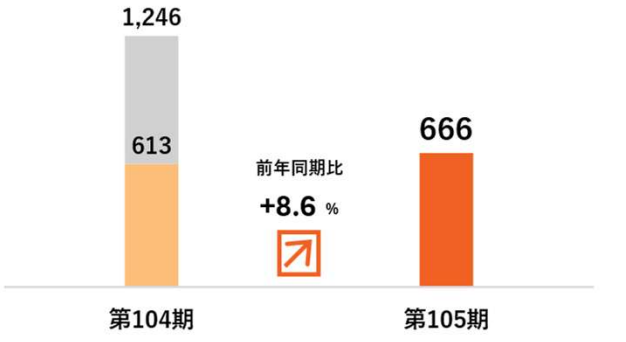
セグメント利益（百万円）



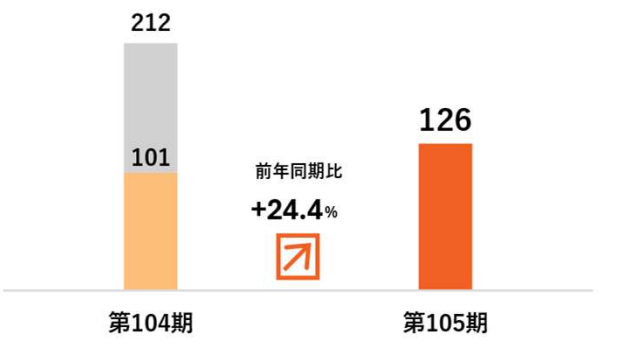
ウエルフェア事業

当事業につきましては、売上高６億66百万円（前年同期比8.6%増）となり、セグメント利益は１億26百万円（同24.4%増）となりました。これは主に、福祉用具の新規貸出しが増加したことなどにより売上が増加したことによるものです。

売上高（百万円）



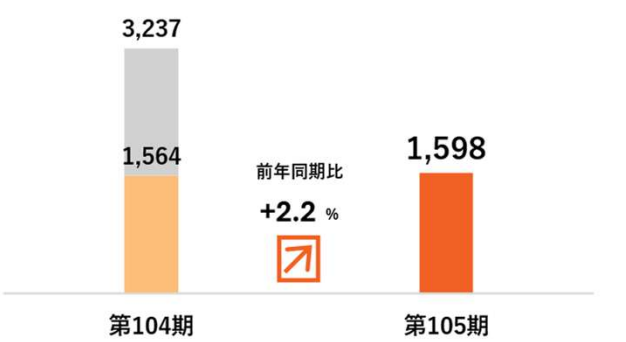
セグメント利益（百万円）



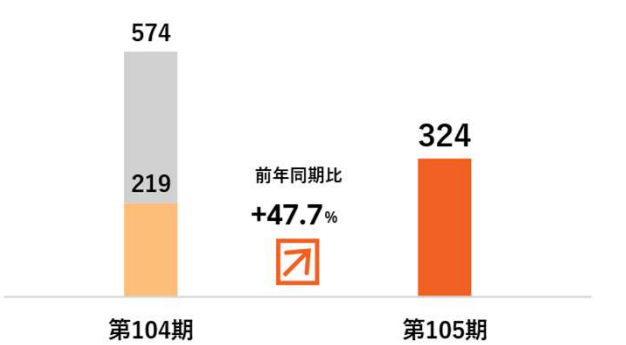
その他事業

当事業につきましては、売上高15億98百万円（前年同期比2.2%増）となり、セグメント利益は３億24百万円（同47.7%増）となりました。これは主に、大手製鋼所グループ会社の工場移転に伴う関連業務の受注などによるものです。

売上高（百万円）



セグメント利益（百万円）



TOPICS



TOPICS１　新規開設した４つのセンターをご紹介いたします

物流業界における人手不足や、輸送力の低下が深刻化する中、当社グループにおきましても人材の確保及び物流効率の向上を重要な経営課題と位置づけております。この度、物流資源の最適化と効率的な活用、物流ニーズを捉えた収益拡大を推進するため、新たなセンターを開設いたしました。

当社グループ最大規模の大型３ＰＬセンターである流山ＬＣも位置し、国内最大級の物流施設群を有する「森のロジスティクスパーク」に、３つのセンターを開設いたしました。

① 流山ディストリビューションセンター１（以下、流山ＤＣ１）

当社グループの中核事業会社である株式会社ヒガシトゥエンティワンＳＣＭ事業本部では、大手ＥＣ向け３ＰＬセンターの流山ＬＣへ、効率的に商品を納品するための中継・集約地点として、10月より流山ＬＣ近隣の「ＡＬＦＡＬＩＮＫ流山８」内に流山ＤＣ１を開設いたしました。本センターでは、ベンダー様やメーカー様に代わり、大手ＥＣの納品規格に対応した物流加工や、商品の一時保管・仕分けを行い、納品準備にかかるお客様の作業負担の軽減を図ります。さらに、複数社の商品を集約・積み合わせすることで、輸送効率の向上と配送コストの最適化を実現いたします。

５月に増床(※)した流山ＬＣにおける更なる取扱量の増加を見据え、入荷作業の効率化に取り組み、物流機能の強化とサービス品質の向上を目指してまいります。



※詳細はTOPICS２をご確認ください。

② 首都圏輸送センター新倉庫

株式会社ヒガシトゥエンティワン東京ロジネット事業部の首都圏輸送センターは、既存のお客様の物流効率化に取り組む中で、関東圏における倉庫ニーズの高まりを受け、９月より新倉庫を開設いたしました。本センターは上記２センターと同様に「ＡＬＦＡＬＩＮＫ流山８」内に所在しており、既存のお客様からの商品保管や入出荷業務の受託に加え、更なる商品保管や流通加工の潜在ニーズを見込んでおります。倉庫業務とあわせて、自社車両を活用した輸送までをワンストップで対応できる強みを活かし、首都圏における幅広い物流ニーズへの対応と、周辺企業へのアプローチを図ってまいります。



③株式会社ネオコンピタンス　流山センター（人材派遣）

当社グループの株式会社ネオコンピタンスは、東京都東部や埼玉県、千葉県を中心とした、物流事業への人材派遣を強みとしており、グループ内においても、物流センターやオフィス移転現場などへ作業員の派遣を行っております。

この度、上記の流山ＤＣ１と同様、千葉県流山市森のロジスティクスパークに位置する「ＡＬＦＡＬＩＮＫ流山８」内に９月より新たに流山センターを開設いたしました。常磐自動車道「流山ＩＣ」に程近く、首都圏における配送拠点として優位性のある同地域には、大型の物流施設が多数位置しております。今後は本センターで、周辺企業からの人材需要に対応するとともに、流山ＬＣ及び流山ＤＣ１への人材派遣にも活用してまいります。





所在地：
千葉県流山市森のロジスティクスパーク
２－８０６－１
ＧＬＰ　ＡＬＦＡＬＩＮＫ流山８

オフィスサービス事業の業容拡大に伴い、新たな倉庫を開設いたしました。

④ ヒガシオフィスサービス株式会社 港南倉庫

当社グループのヒガシオフィスサービス株式会社は、数千名が働く大型オフィスから数名の小規模オフィスまで、全国各地のオフィス移転やオフィスフロアのレイアウト変更、移転に伴う内装工事等を行っております。

この度、オフィス什器メーカー様の納品業務における中継拠点として、10月より東京都港区において新たに倉庫を開設いたしました。交通至便な都心かつ、首都高速へのアクセスにも優れた立地を生かし、什器の一時保管等に活用してまいります。また納品時には、本倉庫で納品先ごとに商品を集約して輸送を行うため、より効率的な輸送のご提案が可能となります。



所在地：東京都港区港南５－４－３６

TOPICS２▶流山ＬＣが増床稼働いたしました

株式会社ヒガシトゥエンティワンでは、３ＰＬ事業の拡大に伴い、既存の大手ＥＣ向け大型３ＰＬセンターである「流山ロジスティクスセンター」を増床いたしました。

当センターは、2023年４月の開設以来、順調に稼働を続けております。

今回の増床により、延床面積は当初の約２倍となる約29,533坪となり、当社グループ史上最大規模の３ＰＬセンターとなりました。なお、増床部分については、2026年５月より順次稼働を開始しており、１日あたり最大出荷件数及び、最大入荷件数が大幅に増加するほか、トラックバース数も拡充し、取扱量の増加や繁忙期における対応力をさらに強化いたします。

当社グループは2026年９月現在、計５拠点の大手ＥＣ向け３ＰＬセンターを運営しております。

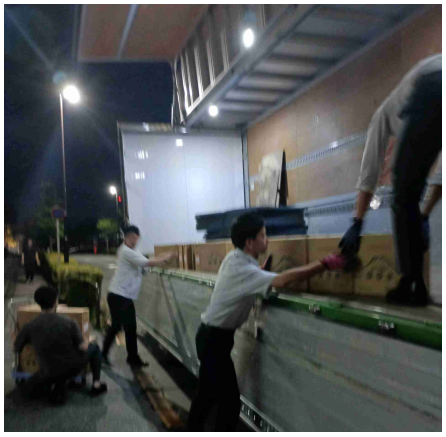
今後も、当社グループではお客様に最適で高品質な物流サービスを提供できるよう、更なるサービスレベルの向上を目指し、業容拡大と収益基盤の強化に取り組んでまいります。



TOPICS３ ▶令和８年熊本地震において、災害支援物資の緊急輸送を実施いたしました

株式会社ヒガシトゥエンティワンＮＨ事業部は、大手生命保険会社様の災害対策備蓄品の管理を請け負っており、災害発生時には被災地域の支社・拠点へ災害対策品の輸送手配を行っております。一次対応として、被災地域に最も近い当社の管理倉庫から速やかに出荷・納品を行うとともに、現地での需要増加や長期化に備え、全国の他倉庫からも柔軟に振り替えて追加供給できる体制を整えております。

７月28日に発生した令和８年熊本地震においても、被災地域へ食料品や日用品等の支援物資の輸送を実施いたしました。地震発生直後から輸送及び出荷作業にあたる関係部門と連携して運行計画を策定し、地震発生の翌々日となる７月30日には、第一便の輸送を完了いたしました。



また、被災地域における大規模な断水の発生による水の需要増加に際し、全国から飲料水や生活用水の手配を行いました。

この度の災害支援物資輸送においては、当社グループ及び協力会社の輸送ネットワークを活用し、介護会社等の関連企業様への対応も含め計89便の運行を実施いたしました。

余震や道路の損壊など二次災害の危険が伴う厳しい現場環境の中、現地での輸送業務を遂行してくださった協力会社の皆様・ドライバーの方々に深く感謝申し上げます。

当社グループは物流を担う企業として、災害発生時においても社会インフラの維持と被災地域への支援に尽力することが重要な使命であるとの考えの下、今後も関係各位と連携し、社会状況に応じた迅速な対応を行ってまいります。

TOPICS４ ▶投資家との対話機会創出への取組をご紹介いたします

当社は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまとの建設的な対話を通じて得たご意見・ご関心を、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に活かすため、対話機会の充実と適切な情報開示に取り組んでおります。

主なＩＲ活動

	2026年度 上期実績	2025年度 実績	内容
株主総会	1回	1回	株主に向けた活動報告及び重要事項の決議
決算説明資料の作成	2回	4回	四半期ごとにアナリスト・個人投資家向けに説明資料を作成し、HPに公開 決算内容及び今後の見通し、直近のトピックスについて記載
アナリストレポート	1回	1回	投資家に向けて、第三者の視点から見た当社業績や成長性の客観的な分析・評価を掲載
個人投資家向けIRセミナー	1回	2回	事業の特徴や成長戦略、株主還元等を説明（会場・オンラインの同時開催）
アナリスト向けIRセミナー	-	1回	
1on1ミーティング	13回	23回	機関投資家のニーズに合わせて随時開催（対面・オンライン）
スモールミーティング	-	1回	国内、アジア圏の機関投資家を対象にプレゼンテーション
SNSの活用（note, X）	-	-	noteでは、投資家向け説明会の書き起こし記事の掲載 決算説明資料の抜粋記事を掲載
			Xでは、開示資料やnote掲載記事を投稿

個人投資家向けIRセミナーへの登壇

当社は、2026年８月29日にＫａｂｕＢｅｒｒｙ主催の個人投資家向けＩＲセミナーに登壇いたしました。当日、会場では50名の方にご参加いただき、ライブ配信では41件のアクセスがありました。なお、アーカイブ動画は10月１日時点で1,500件以上再生されています。

当日は、社長の児島より、当社グループの事業の特徴や成長戦略、株主還元等をご説明いたしました。
質疑応答では、大手ＥＣ向け３ＰＬ業務の受託経緯や今後の展望をはじめ当社事業の収益性・価格戦略、Ｍ＆Ａ方針、人材確保への取組状況、外的要因による事業リスクとその対応策など、多岐にわたるテーマについて活発なご意見・ご質問をいただきました。
当日の書き起こし記事および質疑応答の詳細は、ｎｏｔｅにて公開しております。ぜひご覧ください。



【ヒガシHD（9029）】個人投資家向けIRセミナー書き起こし記事公開（Kabu Berry）

機関投資家との対話状況

2026年４月１日～2026年９月30日には、のべ13回の１ｏｎ１ミーティングを実施いたしました。
１ｏｎ１ミーティングでは、当社の事業環境や成長戦略、今後の見通しに加え、企業価値向上への取組等について、意見交換を行っております。

主なテーマや関心事	・流山LCの増床部分における稼働状況及び収支への影響 ・大手EC向け輸配送業務の今後のニーズについて ・物流効率化法に対する当社の取組状況について ・NEXT GIGAスクール案件の受注実績及び収支について ・ビル館内デリバリー業務の今後の需要について ・配当性向、増配について

（ご参考）社内へのフィードバック状況

投資家との対話の実施状況や、対話を通じていただいたご意見・ご質問は、ＩＲ担当部門であるＩＲ・広報室が中心となり、経営会議・取締役会において適切に報告しております。

	内容	頻度
IR面談実施報告	・IR面談実績 ・主な質問・意見 ・決算開示後の株価・株価指標推移	4回／年
アナリストレポート発行について	・アナリストによる当社の分析・評価など	1回／年
個人投資家向け説明会開催報告	・開催概要 ・主な質問・意見	2回／年
IR活動の年次討議、審議	・直近1年のIR活動の振り返り ・翌年度の活動について審議	1回／年

TOPICS５ ▶2026年度上半期のサステナビリティに関する取組をご紹介します

人的資本価値向上への取組

当社グループでは、事業の価値創造の根幹を担うのは「人」であるとの考えから、人的資本への投資を行ってまいりました。加えて、労働人口減少、各種法令・規制改正への対応やコンプライアンスの強化といった、企業に期待される役割と責任は一層大きくなってきているものと認識しております。こうした内部・外部環境の変化に柔軟に対応し、多様な従業員一人ひとりが能力を余すことなく発揮できる企業の実現を目指して「ヒガシグループ人材育成方針」を策定し、グループパーパス「安心をずっと、驚きをもっと。人と技術とＩＴで、新たな価値を創造し、豊かな明日へつなぎます。」に共感する人材、並びに、ＶＩＳＩＯＮ2030で目指す姿「お客様に最高のサービスをお届けするために変革し続ける企業」の実現に向け貢献できる人材の育成に取り組んでおります。

今年度は、５～10年後の経営幹部候補の育成を見据えた「若手主任向けステップアップ研修」及び、近い将来の事業部長候補の育成を見据えた「トップマネジメント研修」の２つの研修プログラムを新たに開講いたしました。

将来の当社グループの中核を担うことを期待する人材を対象として、事業環境やそれを踏まえた経営戦略の理解を深める機会とし、中長期的な視点を持ったリーダー人材の継続的な輩出を図るものです。

さらに、今年度より人事部内に「キャリア相談窓口」を設置しており、希望者にはキャリアコンサルタントとの面談機会を設けるなど、従業員のキャリア形成の促進にも注力しております。

当社グループでは、現在進行中の「中期経営計画2028」においても人的資本価値の向上を重要課題と位置づけており、引き続きその達成に向けて、採用戦略・労働環境整備等を通じた人材確保、及び既存人材のスキルアップによる生産性向上に取り組んでまいります。

ひまわりプロジェクトについて

当社グループでは、太陽のようにあたたかく、ひまわりのようにやさしい気持ちで子どもたちの未来を応援したいという思いを「ひまわりプロジェクト」と名付け、子どもを軸とした様々な支援活動を行っております。



① ＮＰＯ法人ライツオン・チルドレン様へのＰＣ関連機器寄付

ＮＰＯ法人ライツオン・チルドレンとは、子どもの権利と機会をまもるために、体験プログラムなどの資源を子どもたちに届けている非営利団体です。この度ＰＣの入替に伴い、当社グループではＰＣ107台、タブレット10台、外付けＨＤＤ１台を寄付いたしました。寄付により得られた資金は、児童福祉施設で暮らす子どもたちへのＰＣ寄贈やＰＣを使った体験機会の提供などに使用されています。

②こどもミュージアムプロジェクト関連の取組

一般社団法人こどもミュージアムプロジェクト協会が実施する「こどもミュージアムプロジェクト」は、 子どもたちが描いた絵をトラックにラッピングすることにより、ドライバーや、それを見た周りの方に「やさしい気持ち」を広げることで交通事故の撲滅、危険運転ゼロに繋げようという活動です。当社グループではこの活動に共感し、取組に参画しております。

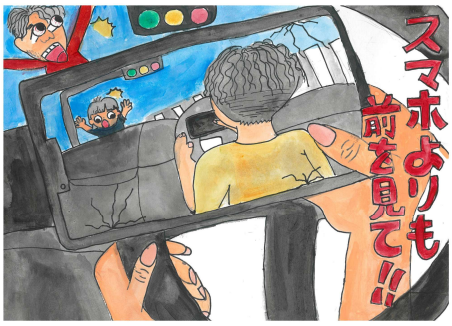
その一環として、グループ従業員やパートナー会社のお子様から「交通安全」に関する絵画を募集する「交通安全絵画コンテスト」 を毎年行っており、入賞作品はラッピングトラックやお客様に配布するカレンダーに活用しております。本年度は 116作品のご応募があり、下記作品が最優秀賞として選出されました。



幼児部門



低学年部門



高学年部門

当社グループは「安全と安心を大切にして、物流事業を通じ社会に奉仕する」という経営基本方針のもと、子どもたちを安全・安心に育むことのできる社会の実現を目指し、引き続き様々な社会貢献活動に取り組んでまいります。

会社概要・株式の状況

会社概要（2026年９月30日現在）

社名	株式会社ヒガシホールディングス HIGASHI HOLDINGS CO., LTD.
設立	1944年 12月
本社	大阪府大阪市中央区内久宝寺町三丁目１番９号 〒540-0013　TEL 06(6945)5611 (代)
東京本社	東京都港区新橋一丁目18番16号 日本生命新橋ビル９階 〒105-0004　TEL 03(6457)9121
資本金	10億円
主なグループ事業内容	サードパーティ・ロジスティクス(３ＰＬ)事業、輸送事業、倉庫保管事業、ドキュメントサービス事業、 物流加工事業、事務所移転引越事業、ＩＴ関連事業、ビル内デリバリー事業、介護福祉関連事業、 駐車場運営事業、オフィス関連サービス事業、機密文書リサイクル事業、産業廃棄物管理事業、人材派遣事業
従業員数	連結従業員数 1,825名（10月１日時点）
グループ会社	株式会社ヒガシトゥエンティワン ユートランスシステム株式会社 株式会社イシカワコーポレーション 株式会社ＦＭサポート２１ 株式会社トランスポート２１ 株式会社ワールドコーポレーション ヒガシオフィスサービス株式会社 山神運輸工業株式会社 株式会社旅人 株式会社ネオコンピタンス 株式会社ピアレス

役員（2026年９月30日現在）

取締役

取締役	児島　一裕	社外取締役	樋口　眞人
取締役	山田　　寛	社外取締役	大西　由紀
取締役	田口　宗勝	社外取締役	脇　　陽子
取締役	角野　公史	社外取締役	勝田　達規
社外取締役	江上　雅彦	社外取締役	鵜川　勝利

執行役

代表執行役社長	児島　一裕※	上席執行役	角野　公史※
常務執行役	山田　　寛※	上席執行役	外園　千尋
常務執行役	田口　宗勝※	上席執行役	新井　慶景
常務執行役	久下　真司	上席執行役	山川　圭洋
		上席執行役	日吉　晋介

※は取締役を兼務しております。

執行役員（2026年９月30日現在）

上席執行役員	井上　和大	執行役員	岩井　和彦
執行役員	新村　誠司	執行役員	山田　謙造
執行役員	大久保律夫		

株式の状況

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式総数	13,129,075株
	（自己株式134,925株を除く。）
株主数	4,961名

配当の状況

中間配当	行っておりません。
期末配当	１株62円（予定）

※現在、配当の決定は通期の業績を踏まえて実施しているため、年１回の期末配当としております。

大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
関西電力株式会社	1,800	13.7
日本生命保険相互会社	1,040	7.9
星光ビル管理株式会社	938	7.1
株式会社毎日新聞社	700	5.3
ヒガシホールディングス従業員持株会	579	4.4
東京センチュリー株式会社	540	4.1
株式会社星和ビジネスリンク	382	2.9
株式会社三菱UFJ銀行	364	2.8
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	224	1.7
金森滋美	201	1.5

（注）１．持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
２．持株比率は、自己株式（134,925株）を控除して計算し、小数点第２位以下を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	４月１日～翌年３月３１日
期末配当金受領株主確定日	３月３１日
中間配当金受領株主確定日	９月３０日
定時株主総会	毎年６月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 〒541-8502　大阪市中央区伏見町三丁目６番３号　TEL 0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所　スタンダード市場
公告の方法	電子公告により行う。公告掲載URL　https://www.e-higashi.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、毎日新聞に公告いたします。)

（ご注意）
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社グループの最新情報をご提供しております。
「ＩＲ情報」では、決算説明資料等の各種ＩＲ資料の公表や、経営情報、各種お知らせなどを幅広く発信しております。
ぜひご覧ください。

https://www.e-higashi.co.jp/

ヒガシホールディングス　検索

公式ＳＮＳはこちら

X(旧Twitter)
@Higashi_HD

note
@higashi_hd

Instagram
@higashi_group

ヒガシホールディングス
HIGASHI HOLDINGS CO.,LTD.